

第2回検討委員会でいただいたおもな意見に対する県の考え方

NO	項目	委員からのご意見	県の考え方
1	議題3「第2期計画素案」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外食時の宴会は数百人規模の大人数となる場合もあり、持ち帰るのは衛生上リスクが高い。 ・ 客側の自己責任といっても、実際に食中毒が発生した場合、菌の特定のため保健所は店にも調査に入ることになるし、やはり食中毒が恐い。 ・ 客に「この料理は持って帰れる（帰れない）」と説明するのに人的労力（コスト）もかかるし、やはり1番は食べることが大切。店側も食べきってもらえるように、客層に合わせた内容や量を考えて仕込みをしている。 ・ 30・10運動を進める「ターゲットに合わせた啓発」を高知県旅館ホテル生活衛生同業組合としても進めていきたい。 	<p>〈No.1、No.2に対する意見〉</p> <p>外食時の食品ロス削減には、「持ち帰り」も一つの有効な取組であるが、まずは「食べきる」ことが重要である。第2期計画では食べきるための「30・10運動」の啓発を実施し、食べきることを当たり前にする行動変容を促していきたい。そのためには高知県旅館ホテル生活衛生同業組合をはじめとする団体、事業者の協力が必要不可欠であり、ともに「30・10運動」を盛り上げていきたい。</p>
2	議題3「第2期計画素案」	持ち帰り促進ガイドラインについて、小規模の外食業者に確認してみたがリスクが高くリターンが低いという理由によりあまりよい感触ではなかった。	
3	議題3「第2期計画素案」	食品ロス削減推進サポーターになるための講座内容や対象者について、例えば生協職員がサポーターの資格を取得して組合員に向けた啓発をすること等を目的としているのか。	<p>食品ロス削減推進サポーターについて、第2期計画では、食品ロス削減を草の根的に啓発できるよう、サポーターの人数を増やすため、食に関連する団体にアプローチしている段階。</p> <p>委員、オブザーバーの皆さまにはぜひサポーターに登録していただくとともに、周りの団体や事業者様で少しでも興味を示される方々にもぜひサポーター制度を広めていただき、高知県の食品ロス削減に協力いただきたい。</p>
4	議題3「第2期計画素案」	当社では小学校と一緒に「循環型農業」に取り組み、エコ活動に関する出前授業をしている。今の児童は環境に関して知識が深く、それを家庭で話す環境もできている。子ども達の世代からアプローチしていくのは非常に大切だと感じる。コラボできることがあれば、一緒にやっていきたい。	子ども達への食品ロス問題を含む環境に関する教育は以前に比べるとかなり進んでいるが、今後は県と教育委員会が連携を深め、栄養教諭等が授業を実施する際に、食品ロスにかかるより詳細な情報を届けることができるよう取り組んでいく。

第2回検討委員会でいただいたおもな意見に対する県の考え方

NO	項目	委員からのご意見	県の考え方
5	議題3「第2期計画素案」	<p>商習慣の見直し等の周知に係る取組をしてもらえたら大変有り難いし、今後の商品流通業界でも非常に大きなテーマである。</p> <p>特に納品期限や製造管理の部分で細かいルールがあり、これらは消費者のためなので、我々もしっかり対応していきたい。水産物をはじめ、日本は買い負けしている状態で物がない状態なので食品ロス削減の取組については引き続き周知してもらいたい。</p>	<p>事業者の食品ロス削減につながる取組について、検討しているデジタル化の仕組み等を活用して見える化を図り、県民に広く知ってもらい、その事業者の商品や店舗を積極的に購入・活用してもらうように促すこととしたい（食品関連事業者等への情報提供は地産地消・外商課より実施）。</p>
6	議題3「第2期計画素案」	<p>フードシェアリングサービスは、首都圏では事例があり、メディアで取り上げられている。スーパーマーケットである小売り店でも1日で売りきらなければならないものもあるため、こういったサービスがあれば活用したい。</p>	<p>フードシェアリングサービスについては、食品小売店等が収益を増やしながら食品ロスを削減できる有益な取組であり、全国で広がりを見せている。当県でも他自治体等の取組を参考にしながら検討したい。</p>
7	議題3「第2期計画素案」	<p>フードドライブ等で受け入れることができる食材については、例えば賞味期限が1ヶ月以上残っているか、生ものではないか等の条件がある。第1期計画には「条件を受入先に確認する」といった表現があるので、2期計画にもそのような注意書きの掲載を希望する</p>	<p>計画案に追加記載することとする。（P26）</p>